

# 有田中央高等学校

実施日時	令和2年 1月 30日(木)、1月 31日(金)
参加者	生徒 105名、教職員 15名、地域住民等 20名 計 140名
実施内容	アルファー米試食、防災食器作り、救急搬送体験、土嚢作り、出張！減災教室(ごりょうくん体験)

## ねらい

身近で発生する可能性のある自然災害に備えて防災意識を高めるとともに、地域防災の担い手として活躍できる人材を育成する。

## 主なプログラム・概要

### 1、 防災食器作り・救急搬送体験

防災バンドブック(P18)を参考に、紙とナイロン袋を利用して食器作りを体験した。さらに、避難所での生活を想定して、実際に自分で作った食器を用いてアルファー米を試食することで、避難所での生活を具体的に想像することができた。

防災ハンドブック(P15)を参考に、毛布を使用した応急担架を作り、搬送体験を行った。作り方と共に、運び方についても体験することで、地域防災の担い手としての意識を育むことができた。



### 2、 講話(建設業協会・建有会)

有田郡市内で起こった自然災害によるインフラ設備の破損などの復旧作業に係る経緯や、災害時における建設業者の果たす役割について講演していただいた。



### 3、 土嚢作り

建有会の方々の指導の下、土嚢作りを体験した。災害現場で実際に使用される土嚢を作ることで、土嚢が果たす役割や、その活用方法などについて学ぶことができた。





#### 4、 ごりょうくん体験

近い未来に起こるとされている大地震を想定して、体験的に地震を学ぶとともに、地震の怖さや地震がきた際にどのような行動をとることが望ましいのかを学んだ。

#### 参加者感想文

- ・いつ災害が起こるか分からないので、日頃から準備しておくことが大切だなと思った。
- ・本当に何か起こったときに、しっかり落ち着いて行動できるようにしたい。
- ・いざとなった時の対処法を色々学べた。棒 2 本と毛布で人を運べて、以外と安定感があってすごいと思った。
- ・土嚢作りは初体験でした。案外重たくて作るの大変だと思った。でも重いから水をせき止めることができるのだと思った。建設業界の人が災害後、頑張ってくれるおかげで、日常を取り戻すことができてるんだと思った。
- ・災害が起こった時に役立つ知識を教えていただき、どれも知っておかなければならないことばかりだった。この知識を周りの人達にも教えていこうと思う。



#### 成果と課題

##### 【成果】

これまでの災害において、多くの人々のおかげで、日常を取り戻してきたということを理解する機会となった。また、実際に災害が起こった時に、自分自身どう動くかということ具体的に想像する機会となった。「揺れが起きたら、自分自身動けなくなるかもしれない」「困ってる人がいたら助けよう」「防災食器の作り方を家族に教えよう」等、大なり小なりそれぞれに災害時のイメージを持つことができたことが成果である。

##### 【課題】

今年度においては、避難訓練と今回の防災スクールで防災についての学習は終了となるが、単発の学習で終わるのではなく、継続的に防災について考え、地域の担い手となれる人材育成に努めたい。